

びょういん発

No57

5月

小児救急の 24時間365日体制スタート

地域医療の中核的役割を担っている市立病院では、小児科の医師を増員することにより、一次医療機関で対応が困難な小児救急患者を受け入れる体制を整備し、小児科の二次救急医療機関として、24時間365日体制をスタートしました。小さなお子さんの急な病気などに対し、深夜の時間帯においても市立病院が全力で対応してまいります。



「ぐったりしているのに診てくれるところがない...」「救急車は呼んだけれど、受け入れ先が見つからない...」そんな不安な状況が少しでもなくなるように、大和市立病院小児科では24時間365日、処置や入院が必要な患者さんに対応していきます。24時間電話相談、地域医療センターでの夜間・休日診療、市立病院の救急外来、上手に使い分けたいと思います。



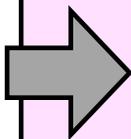
小児科 科長
粟生 耕太

一次救急医療機関とは：軽症の救急患者が対象。地域医療センター休日夜間急患診療所がこれに当たります。
二次救急医療機関とは：入院が必要と思われるような中・重症患者が対象。小児科はこれまでの輪番制から、市立病院単独になります。

救急搬送を考えるほどではないときは、まずこちらへ

やまと24時間健康相談

けがや病気の対処法を知りたい、救急医療機関を受診すべきかわからないとき
TEL0120-244-810
市内在住者対象
24時間・年中無休



一次救急医療機関

地域医療センター休日夜間急患診療所
住所：大和市鶴間1-28-5 TEL046-263-6800

<診療日時>

月～土曜日：午後8時～11時
日曜日、祝日、振替休日、年末年始：
午前9時～正午、午後2時～5時、午後8時～11時
(いずれも受付は診療終了の15分前までです)

市民の皆様から信頼される地域の基幹病院として
良質かつ適切な医療サービスを提供します



大和市立病院

患者サポートセンターってどこにあるの？

患者サポートセンター長 山田谷 節子

今年度の4月1日より大和市立病院患者サポートセンター長を拝命いたしました山田谷と申します。職種は看護師です。患者サポートセンターとは、これまでの地域医療連携室が行っていた業務に、

- 1. 病床管理業務 2. 患者相談窓口業務 3. 病棟へ退院支援業務を専従とする看護師を配置**

の3つの業務を加え、それらを総称した部門の呼称です。これまで地域医療連携室と呼ばれていた部門が新たに再編成され、患者サポートセンターとして生まれ変わりました。以下に簡単に業務をご紹介します。



		場 所	おもな業務内容	担当職種
患者サポートセンター	1階	総合案内	患者支援体制の相談窓口を設置 患者、家族から寄せられる疾病に関連する様々な相談業務	医療有資格者
		地域連携科	入退院相談支援業務 訪問看護業務 紹介状受付・返書業務	看護師 MSW (医療ソーシャルワーカー) 事務
		横浜銀行 ATM 横 (がん相談支援センター)	がん相談支援業務 就労相談業務 セカンドピエゾンピアサポート 患者会窓口業務	看護師 MSW (医療ソーシャルワーカー)
3階	医師会室横 地域連携科	病診・大和市医師会連携業務 紹介予約・共同利用・開放病床窓口業務 がん診療連携拠点病院事務局業務 病床管理業務	事務	
	5階	地域連携科	入院患者対象に退院支援業務 医療福祉相談 入院・転院相談業務	看護師

働く場所も職種も違い、お互いの仕事が見えにくいという環境下でも協力し合い、限られた人員で有効かつ効率的に活動できるよう、みんなで頑張っております。ブルーの携帯ストラップを首に下げている職員が患者サポートセンター職員です。どうぞよろしくお願いいたします。

手術室を増設しました



当院では、手術の件数が年々増加傾向にあります。平成27年度においては、眼科における白内障手術、婦人科や外科における腹腔鏡手術等の症例が増え、年間で4,250件に達する手術が行われ、既存の手術室全5室での運用がフル稼働の状況にありました。

そのため、昨年度、新手術室の増設工事を実施し、既存の全5室と同等の手術台や无影灯などの医療機器を整備したところです。

手術室が一室増えたことにより、手術後の清掃を行いながら、別の部屋では次の手術の準備ができるなど、手術室全体として効率的な運用が可能となることから、現状の医師及び看護師の体制のまま、術式を選ばず手術件数を増やせることとなりました。



(平成29年3月27日撮影)